

淨瑠璃時報

滿・鮮・支・旅日記 (續)

河野國聲

三月十八日から一ヶ月間は北支で暮らし、四月の十八日天津發で歸路滿洲に入つてからは、正に淨瑠璃専門の半月であつた。

十九日は再度の奉天で竹澤宗吉道場訪問、長老田中胡蝶邸訪問、吉野井筒氏宅では夜間レコード稽古の秘法公開、一日中淨曲で暮らしてホテルに歸つたのは一時頃、翌朝八時には非筒氏來り食堂へ行かうとしたら、計らずも東京素義雄田口司重氏に逢ひ、離れて遠き滿洲での奇遇に會食しつゝ淨曲談義にしばしの別れを惜しんだ。

氏は北鮮からハルビンを先にして昨日新倉から奉天へ、我は又今日新倉へ行く、司重氏得意の語り物朝顔ではないが、明石の舟別れでなくて、滿洲日記宿屋の段であつた。

ハルビンは舊露西亞帝政時代の極東經營の據點、純露西亞風の舊文化を誇る落ついた都で、南の上北海のハルビンと、相對した一種言ふに言はれぬ魅力に富む國際都市、滿洲や北支で一所懸命働いて砂塵にまみれた體の疲れを洗ひ落すには最も適した遊園地だ。晝は坂ゆけのした露西亞美人の散策姿をキタイスマカヤ(露人の退堂)で見、夜は各所のキャバレーやトロイカの○○ダンス、公許の○演等も獵奇百パーセントだ。

一方日本街の花柳界も至極のんびりと落つてゐるが、満點、質のいい、奇麗な妓の多いのにも驚いた。奥地で、中にも太極細棒兩方便で美人で惻愍で愛嬌もので知らぬ者が聞くと一寸へんだと思はれる位の讃辭を呈してもいい程の一郎姐サマや、一香の踊りのうまさなど純眞さなどは、滿洲の眞面目を物語るによい材料だ。

それで居てハルビンの花柳界が恐らく東洋一安心だからたまらない、藝者一時間一圓八十錢、酒一本五十錢、席料三圓から六圓迄ナントどうです、世の男性たるものハルビンで暮らさずは度くはありませんか、聞けば何でも當局が絶對値上を許さぬからだとの事だが、我々旅行者には當局様々だ、外地に似合はぬ品の良さは調つた古い都故で、風儀のよいのは土地の總

は又不思議な宇宙現象の一つだ、大ていのは誇張も出来るが、これはかりはともいへぬ!

其武蔵野のジャングイ(主人)がナント我が淨曲黨の隨一、令弟遠藤素洲氏も斯道の旗頭で芝居もうまいと云ふ藝熱心家、加藤加十、醉月、翁等の語り手あり、名古屋ホテルの大廣間會場に、オールハルビンの淨曲大會が開かれたのが四月廿四日、後援は政府御聲がかりのハルビン日々新聞社とハルビンビル會社、安井支隊、以下大勢の好意で新聞の社會面へ大々的な廣告まで掲載してくれたので人氣は上々前氣も旺盛、各方面からの花環なども飾られて國聲太夫君大もての次第であつた。

ところが翌晩放逐と決まつて居た豫定が、廿五日鳥物御聲上を有つて急に繰上り、同夜九時から四十分迄、内地で竹本小仙の語つて居る向ふを張る事に成つて、辨慶上使を放逐、床着のま、放逐局から會場に飛びつけ、十時から又太十を一段、大馬力で咽喉を裂けよ腰も砕けよと、こゝをせんと怒鳴り立てた、四十日間蓄めた精力は腹に満ち立ちて元氣々々、難なく突破して未だ餘力あり、十一時過からの慰勞會の席では忠臣蔵七段目を一人三役で語り、まだ語り足らぬ顔つきでコノ分では十段位は大丈夫だと言ふと、十段目はサツキ語つたでは無いがで大笑ひ。

新倉は師匠が四人も居り、素義も五十名も在つてナカク盛んだから早く来いと、素義の名人増田豊年畫伯より豫ての來翰に依る目當ての場所の滿洲一の語り手として我人共に許す田中相生氏の本城汽車の都合で新倉を後廻しにして先づハルビンに急いだ。

東洋一の豪華列車あじあ號の乗り心持はチョット口には言はれぬ味特急券がいつも四日前から賣切れるとはたもありなん、三等車の方でも内地の二等よりズツと良く超々快速!野が飛ぶ?山が走る!松花江の上流を走る頃滿洲名物の赤い夕陽が地平線に落ちる、美觀と言はんか壯觀と言はんか、これ

なく迄はつ木であり、凱陣の(太十)はあく迄がい陣であるなど研

この區別がらひはつきりしてゐる話はないので、義太夫の文句の議

鮮文藝社主催の淨瑠璃大會では、内地の特別出演者として、河野國

猿糸) 太十(河野國聲、東廣)

電話小石川五八〇〇番

發行所 淨瑠璃時報社
東京市本町三丁目二番地
電話小石川五八〇〇番
支店 大阪市東区東本町二丁目
電話小石川五八〇〇番
支店 名古屋市東区東本町二丁目
電話小石川五八〇〇番

奉祝 紀元二千六百年記念義太夫大會

附(本紙第二百五十號記念)

豫て御贊同を蒙りましたる本社主催記念義太夫大會は、愈々來る六月十三、十四、の兩日午前十時より華々敷開會する事と相成り、御申込も左の如く殊の外多數御贊意をうまけしたる段厚く御禮申上ます、尙兩日共大切に演劇を開演致しまする關係上、時間を確實に開演致しますれば御含みの程を御願ひ致します。

- 御出演 妙心寺(岡田蝶花形、玉勝)戀十(勝田松雨、猿之助)合邦(奥村三三、龜造)帶屋(原田越巴)和歌吉(狐火)大用(大嘉津、猿藏)宿屋(森市菊、福彌)菅四(神馬里芳、芳太郎)新口村(小原松樂、榮登)本下(安藤柳正、猿女)壺坂(登調、猿女)合邦(富永司、猿女)又助(甲澤巴、猿藏)未定(桑原美峰、猿之助)蝶八(岡田彌聲、扇之助)鮮屋(錦山歸世花、扇之助)逆櫓(及川旭、道之助)菅三(細川清、道之助)野崎村(中田五口、道之助)橋本(高瀬道之助)太十(奥田晴峰、仙十郎)御所三(米澤春榮、松四郎)未定(安藤光榮)新口村(花房紫蝶、仙十郎)酒屋(中野吳羽、米翁)草履打(清子、雷米)ちよんがれ(高橋宮古、和安達三)伊藤松鶴、猿之助)十種香(安藤都竹、都太夫)伏見の里(平山平茶、觀西翁)未定(松尾武市、猿三郎)太十(河森痴樂、若好)御殿(白井清華、米翁)御所三(三並義昌、猿三郎)御所三(片倉松嘉、松四郎)引窓(星野桔梗、綱助)御所三(伊藤みのり、延左衛門)新口村(平林紫紅、和歌吉)陣屋(佐野美昇、鏡太夫)沼津(松岡茂雄、猿平)未定(保谷紅司、辰六)未定(吉田三芳、猿三郎)双蝶々(木村一司、川口子太郎、和孝)酒屋(鈴木松實、團八)未定(近江清華、寛三郎)(以上五月十日迄に決定分以下次號発表)
- (演劇出演御芳名及び狂言、役割等は欄外及び臨時號に掲載致します)

期日 六月十三日 午前十時より義太夫會を開き兩日共午後七時より演劇開幕

會場 日本橋濱町 河岸 日本橋俱樂部

語り時間 約二十分程度(御贊成順抽籤によつて語り順決定近日抽籤を御通知申上ます)

演劇 日本橋濱町 河岸 日本橋俱樂部

(千本鮎屋、大関記十段目)

本郷區龍岡町三十二 電話小石川五八〇〇

儲かる話の序だから言ふのだから

淨曲黨で支那滿洲へ來て儲けた人成功した人は驚く程澤山有る、當地の武蔵野氏を筆頭に加藤加十、田中胡蝶、吉野井筒等の百萬圓組から初めて、二十萬や三十萬の資産を造つた人はザラにある、東京素義の玉五、藤原光五郎氏等もこの三年間に、モウ十萬や廿萬は堅しい。

聽講料はいりません、國策への一助とも成る事故傳授料一切不用

廿五日夜行で廿六日朝奉天着、又々井筒氏に一日中案内され、夜は奉天一の粹山で接待を受く、鯉かと思ふ程の鮎の生きた背中から刺身を抜き取つて食ふ鮎の生送り内地でも珍らしい藝當をやる板前の腕を見せたつもりか、席に來た

若連、東連等大合同の聯合會でもあり、二千六百年奉祝との見出しも掲げられて、プロも各方面へ廻つて居たと見え、開會前から早くも満員 花環花籠等も會場に溢れて聞けばコンナ盛會は京城にも珍らしいとの事であつた。

ア、それなのに、折角の歡待期待を受け乍ら、當の本人が連日の夜汽車の不眠不休から、スツカリ疲れ切つて、ヒョロヒョロの光秀に、よろほい、の重次郎最初からの手負ひで大味嗜つて。

それでも素人は有難いもので、大いに同情的喝采を受けて、クスグツたい様な思ひ乍ら京城屈指の先輩素義林管玄翁邸で大變御馳走に預つたり、病中の猿糸君を見舞つて、きれいな令夫人と好一對の御夫婦振りを弄したりして時間一杯に夕方の暁で釜山に向つた。

汽車の中も船の中も淨曲談で持ち切つていつの間にか大阪まで

京都では丁度年に一度の京名物、伏見稻荷の御旅所で連日素義競演會の眞つ最中とて、東京素義の素通りはまかりならぬ、一夜の仁義だ語つて通れとの掛合に、こつちも去る者、引け目は旅の恥と關東男の意氣を見せ、喜幸氏の絃喜市氏に弾いて貰つて鮎屋を語つた、疲れた鮎屋、にぎり壽司は關東に限るが、彌助の釣瓶鮎はやつぱり上方に限るのの感あり、推薦者藤原喜幸君に感謝す。

明ければ五月一日明日の東西合同の八千代會、九重會に間に合ふ様と特急に乘込んだら、其汽車に大阪八千代會の一同も乗込んで居り、東京驛では九重會員一同がホームに迎へての交馳場面一景。

ア、計らざりきこの四十五日は淨曲と共に日本を出て、滿鮮を思ふ存分に語り廻り、歸途は又淨曲人と共に歸つて、二日三日の淨曲會に逢ふ、六日の紫會、八日の名古屋中祭演舞場の筑後氏追善會、十日十三日の無名會、同風會の事も氣にかゝる、ア、忙がしい淨瑠璃商賣かな。

淨瑠璃時報社

本郷區龍岡町三十二 電話小石川五八〇〇

五十義會の聴き物

及川旭氏の「二代鑑」其の他

内田 富太郎

恒例五十義會春季大會三日中の語り物では及川旭、道之助兩氏の「關取二代鑑」が抜群の聴き物であつた。

珍らしい浄瑠璃を語る事は一種の冒険であると同時に逆手とも謂へる。

しかし旭氏の「二代鑑」の場合其の両面を超越して如何にも藝格がこの浄瑠璃にピッタリと當嵌つてゐる快よ。

宛ら水を得た魚のやうに個性が鮮動する。未聴の人が多いであらう此の語り物は浄瑠璃の意義もあると俱にこれを採擇した道之助師は流石に旭氏の藝術を知悉してゐる凡師でない。

氏の特質である強靱な迫力が壓倒的にモリ上つて技現一如の熱調的な意味が全面的に豊富に漲る氏は傾城お淀の入込みと女房お里の家出の前半を抜いて道引違へ先に人音……から演つた。

何と云つても石割雪駄の拜み打ち……が壓巻で鋭く逞ましい描線がグン／＼迫つて雪駄で肩間を打ち割られ骨の髄まで沁み入るよくな痛さを堪へて出まいぞ……と奥に窺ふ帯刀お淀を制止する秋津島の氣合と意力が悲痛な氣魄を渾現して誠に見事であつた。

切り場近い見下り果てたる魂と……帯刀の秋津島への訓戒も眞情流露して錆びた情懷が喰ひ入るよりに胸を締めつける骨組のがツしりとしたコクのある男性的な嫌味のなさは旭氏の藝格の特徴で眞魂透するひた向な熱演は小技巧のない堂々たる力と氣魄の浄瑠璃で誠に斯界の一異材である。

み出す、執着的な濃度性であらうどこかサラリと突放して急所でグツ／＼と締めつける清澄な魂の錆が欲しい。

とは云へあの味のある難聲が大晏埒の夕闇に非人にまで姿を棄して難病に冒かされ乍ら仇討の思念に燃える春藤治郎衛門の青白い陰影のあるネツい復讐の一念をよく描寫されてゐた。

「玉藻前」の掛合では安藤都昇氏の「秋の方」が楽しめた氏は俊英な義太夫評議家であると同時に未來ある優秀な語り手だ。一寸と藝向が若き河野國聲氏と云ふ感じがする尤も未だ國聲氏程よくやかな氣品と、深緻な織巧さは求められないがどこを語つても充實してゐるツツがなく行き届いてゐる其れと人物の個性把握が流石に的確でたへず「心の裏付」が透み出る演出が俊鋭巧緻である。

只惜しいことに格調が整つてゐる爲めにそのツツのない巧さが終始平均して「震ひ付く」ような傑出した巧さが未だ進ばしらない、それを一皮突き破つてズバ抜けた良さを急所で見み出すようにすれば氏は若くして大物になり得る人物である。

五月二日、三越に於ける趣味の文藝會で岡本文彌君の新内、戀娘昔八丈鈴ヶ森の段を聴いた其の中に「もしや群集のその中に」を「くしふ」といはず「くしふ」といひひ喝采を博した。その他げればぬ役人を係りの役人といひ、丙午じやあるまいしを省略し、迷信の流布を新内の講座からでも少くしたいといふ氣持や、さみずの茶屋をさめず(鮫洲)の茶屋と正しくいひ、いろ／＼心遣ひせられた點は同じ文句を語る義太夫に於ても

浄瑠璃の濁音と清音と

岡田 蝶花形

参考に値す。終つて樂屋で私は文彌君と斯界の權威の御老人たる岡本宮染さんに問ひ正したら、これは浄瑠璃の約束事で別に國語を無視した譯でなく、ちやんとくしふの發音が正しいといふ意味を心得て居てくしふといふのであるといふ、そこで私ははたと手を打ちこれなる哉と一度に次の事が解決した。

究を書いたが、それは國語の正しい云ひ方に過ぎない、浄瑠璃の約束といふものを忘れて居たので、前言を取り消したいと思ふ。(お前は考がぐら／＼して怪しからぬといはれるが、純學徒として意地張る事は研究ではない、悪けりや取り消す、又そんな事はじめから義太夫道で師匠に聴けば判る話といふが、今私に師匠は一人もない、あつたつて國語の事は辭典の右に出づる師匠はあるまいと思つてゐるのだ)議論はない、結論は

凱陣(かいじん)……太十 伐木(はつほく)……柳 問談合(たんごう)……玉三 合力金(ごうりきん)……合邦 群集(ぐんしゅう)……鈴ヶ森 皆これよ、浄瑠璃(義太夫といはず新内といはず)の約束と思へばよい、然し濁音が正しい國語であるとは知らぬで、飽く迄清音の方が正しいと義太夫學の方から全部に應用されたり、通をふりまわす事は全然なや居ない、代にどこといつたつて「ばつ」といふ音より他にないのである事を心得られた。

以上名詞についていふので「浮べる」を「浮へる」といふ如きは私は飽く迄反對である。又私が本紙四月一日號で指摘した佳照師の語つた「つとめする身はいざ知らず」を「いざ知らず」でなく「いけな」といつたのは、濁音であるべきをワザと清音でいふのは意味が違ふ、それは「いざ」といふのは「サア」といふ意味の感動詞で「いざ」といふのは人はまあどうかしらないがといふ意味の副詞であるので、清と濁とでその言葉の根本が違ふのである。(●●●をいざで差支へなしと中川愛氷氏は堂々と浄瑠璃月報誌上で述べてゐるのに、思はず吹き出したが、私は本紙次號でその點を詳しく論じたが、それとこれを混同されぬやう申上げる。「いざ」と「いざ」との區別がらむはつきりしてゐる話はないので、義太夫の文句の議論する人は勿論語る人は語る文文句の研究に不明な點は字典ぐらゐ引いてから語つたり又正邪の發言をしてもらいたい、でないとい紙の

浄曲無名會

奉天から吉野井筒の兩君來京して 田中胡蝶 文化俱樂部に開會

河野國聲君が、滿支を往復し、始めての來賓に滿洲の吉野井筒、田中胡蝶兩氏が應援で無名會を開催し盛況を極めた

遺家族慰安

坂東勝治一座身振入り 義太夫大會

帝都で知名の人々が集つて、身振り入りの義太夫會を、久々振りに雷門並木俱樂部に、五日六日七日の三日間華々敷開催した

壽式三番(坂東勝治座中)宿屋(莊喜聲、素女若)壺坂(仁木翠松、素昇)安達三(岸竹史、東太夫)菅四(齋藤山生、鹿重)玉三(神馬里芳、勝助)堀川(山田義昇、扇之助)二日目、鳴戸(伊藤



紀元二千六百年奉祝記念

日本精神宣揚 情操教化藝術

浄瑠璃大會

去る四月廿七日夕より、京城本町三丁目の本三俱樂部に催した朝鮮文藝社主催の浄瑠璃大會では、内地の特別出演者として、河野國

論する人は勿論語る人は語る文文句の研究に不明な點は字典ぐらゐ引いてから語つたり又正邪の發言をしてもらいたい、でないとい紙の

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

Table listing names and amounts for the '浄瑠璃大會' (Jingururi Taikai). Columns include names like 柳 (Ryū), 田中胡蝶 (Tanaka Kōtetsu), etc., and amounts in yen and sen.

諸君の御座るに御座りませう。お注文は電話或は御手紙で御願ひ致します。諸君の御座るに御座りませう。お注文は電話或は御手紙で御願ひ致します。

からうが寧ろこれからの伸び方が見ものだ。

妓の中では若者といふのがナカナカ別、この妓の生造りは誰の

若連、東連等大合同の聯合會でもあり、二千六百年奉祝との見出し

浄瑠璃時報社代理部 電話小石川五八〇〇番

本社主催の餘技

本極り 太十と鮎屋

興行規則改正で

一般師匠も許可制

藝妓の技藝者は依然不可となる

技藝者の證下附は目下警視廳興行係で六月中に完了すべく調査整理を急いでゐるが、四月二十日廳令により新興行取締規則一部改正され「技藝者と稱する興行に出して技藝を爲す」の下に「演劇、演藝の教授を爲すもの」が加へられ一般師匠、教師も悉く許可を受けなければならぬことになつたので技藝者總數は一を越ゆることとなり係員を臨時増員して多忙を極めてゐる、邦樂の各流、舞踊師匠、洋舞、洋樂の教師は全部許可がなければ看板が掲げられなくなる、尙問題となつた藝妓の技藝證下附はその後保安課風紀係と興行係が折衝中のところ「兼業を許さぬ」藝妓取締規則を改正するに至らず、當分藝妓は許可技藝者たることは出来ないこととなり、レコード歌手等の望みも絶たれた譯である。

日本義太夫因會

女子部後援會

第四回演奏會

五月廿八日午後四時半より、並木俱樂部に開催する、因會女子部後援會は
玉三(佳世子、佳仙)新口(巴、駒、巴住)管四(綾千代、猿玉)沼津(昇登、巴住)戀十(清司、猿玉)阿漕(彌周、三生)御殿前(重子、勝八)御殿前(住若、清一)岸姫(素昇、猿玉)紙治(團雀、清二)太十(駒龍、津賀昇)野崎(和佐之助、猿女)十種香(越駒、紋教)



女義東會

東橋亭に催す

第六十五回
来る廿日定席東橋亭に於て午後二時半より、第六十五回東會を開催、晝夜通しにて番組は左の通り決定す。
御祝儀、津賀重、巴松、岸姫三(越駒、紋教)新口(昇登、巴住)御殿(駒龍、駒清)壺坂(團雀、清二)百度平(彌周、三生)十種香(巴駒、巴住)美濃屋(小津賀紋教)柳(駒龍、津賀昇)壽司屋(猿春、三生)合邦(光助、清二)野崎(掛合)お光(彌周)お染、(駒龍)久松(小津賀)母、およし(駒龍)久作(越駒)絃(巴住)ツレ(清二)

兜會春季大會

日本橋俱樂部に開催

帝都隨一の誇りとしてゐる株界を一九とする、兜會は來る六月二

文樂座スケッチ



五月興行
文樂座
上 草履打の段
局岩藤 桐竹政、龜
中老尾上 吉田文五郎
下 礎拍子の段
祖父徳太夫 桐竹門造
祖母小仙 吉田榮三

中老會例會

廿二日午後二時半より、雷門並木俱樂部に開催
御殿(有明)猿(忠四)奇聲和歌吉(國定忠治)慶鶴(糸造)美濃屋(越巴、和歌吉)酒屋(松玉、扇之助)忠六(茂里雄、猿平)

菅原傳授手習鑑の通し

名作淨瑠璃同好會

第七回試演

通し物を上演する事に他會の追随を許さない名作淨瑠璃同好會は六月三日午後一時より、電氣俱樂部の大講堂に、序切の筆法傳授から、四段目の寺子屋迄を、左の通りの番組で催す。
菅原傳授手習鑑 筆法傳授前(川口子太郎)後(松浦淀橋)築地(谷口王華)杖折(久米中次)東天紅(仙臺八雲)道明寺前(保坂有曲)後(高瀬操)車曳(掛合)茶筌酒(谷口王華)喧嘩(木村一司)訴訟(平井物外)櫻丸切腹(松尾武市)天拜山(川口子太郎)北嵯峨(松浦淀橋)寺入り(米澤稚樂)寺子屋前(星野桔梗)後、(河野國聲)三味線は豊澤猿三郎野澤道之助、鶴澤綱助、豊竹和孝

義太夫入都々逸

竹本喜美太夫

「悪いと知りつゝ、踏み迷ふ」
沼津「今日や死ぶか翌の夜は我が身の瀬川に身を投げて」

五聲會大會

蠶糸會館に催す

同會春季大會を來る廿一日午後五時半より、丸の内蠶糸會館に開催するその番組は
菅四(庭山若實、宗之助)山名屋(小原松榮、榮登)玉三(吉田三芳、猿藏)忠六(松岡茂里雄、猿平)日蓮三(井上聲鳳、吉兵衛)



豊澤芳太郎氏 深川區清澄町三ノ六番地に蠶糸町舊宅を移す 電話本所 四〇八一番

玉川女竹

春の雨

「好いて好かれて 身まよになつて 十種香へ人目にそれとわからぬ ど親と呼び又つまどり」と
「呼べる日を 待つ籠の鳥」
「なまじ逢や、 苦が増すとは知れど 本下へ身にひし」と
「思いあふ夜の新枕かはす 五ひの言の葉も 忘れがたなき 胸のうち」



囀の囀

去る九日日本橋俱樂部に催した日本義太夫因會では、東太夫と近衛太夫の長局掛合で猿之助の三味線と共に當日の壓巻であつた

津彌太夫は肺炎で入院してゐたが、因會の大會やら飛行館の舞踊道成寺の道行に、どうしても病床にゐられず八日と九日病院を抜け出して御出演とは熱心なもの
警視廳技藝者許可證交付者の、義太夫界での先驅者は、清重が筆頭で次が殿母太夫、紅葉太夫、美佐子、駒若、巴住、播磨年、絃内

八千代會と九重會聯合の大會で栗原千鶴君の太十が近頃にならぬ來榮で、東京側の溜飲が下つた
五月興行に文樂座に欠演して、大阪道頓堀に新裝記念大歌舞伎の角座に實川延若一座に出演してゐる鶴澤道八は、鶴澤道八曲、榎茂都陸平振附、壽式三番叟を、女翁(扇雀)千歳(延三郎)三番叟、(簀助)同(鶴之助)が立方で文樂連の太夫三味線は(南部太夫、伊達太夫、播磨太夫、越名太夫、土佐太夫、道八、友衛門、喜代之助、八造、團伊三、新太郎)の連中が出演してゐる
日本橋俱樂部の因會へ出演した巖太夫の揚屋は頗る聲を痛めてゐる

關口靜香、宮原以與子

見臺披露義太夫大會様相

新藤泰觀

庚辰年卯月廿三日於並木俱樂部開演せられ筆者也招かれたので所定時刻を少し過ぎて馳せ参じたが場内満員の盛況であつた之は元より時勢の推移に伴ふ一現象とは云ひながら良友會主豊澤良造師の聲望の然らしむる處と首肯された、以下順を追つて寸評を試みたいが諸子が苦心の賜を徒に否定するものでは無く其の長所を向上させ短所を是正せしめ延いては日本主義昂揚の一助にも考へたのである

合邦ヶ辻 赤尾梅笑、良造 遅刻の爲め拜聴する事を得ざりしを遺憾とするも意氣も備り聲量もあり無難なりとの衆評を代辨する

卅三間堂 境 美幸、良造 人物の描出等器用に演じたるも稽古不足の爲めか節に圓味を缺く

勘平腹切 板倉富雪、良造 老母の表現最も可、外の人物も相當の出来なれど場合に工夫を要す全面的に餘韻少き憾あり。

御所櫻 三 松、良造 自己聲量一杯に演る大藝精進せば蓋し進境速かならん唯熱意の餘りにや姿態誇張就中口元醜し自肅是正を切望する。

安達ヶ原 藤村吳洲、小和光 少しく單調の嫌はあれど此演題として可ならんも作意の眞髓に入りて研鑽せられん事を望む絃をはづしたる所あるは稽古少く加之舞臺馴れぬ爲めの失策らし、絃小和光女は未だうら若き様なれど細細にして潤味ある弾き振り前途有望

三勝半七 大築 葵、良造 淨曲の生命たる意氣も備り迫力もあり立派なる演出なれど口捌き悪しき爲め語尾に不明の所あるは遺憾なり人物の顯現に於て三勝優美味少く老母歳若くして艶味多く三

迅速なるべし。

尼ヶ崎前 關口靜香、良造 姿態良く氣韻もあり聲質も悪しからず聲量も充分なり眞面目に奮闘せば上達速かならん斯界に入りて日淺く舞臺馴れぬ爲めか憶する所あり隨つて演出振硬化の傾向あるやに觀せられたり。

尼ヶ崎奥 三田柏秀、良造 先天的に素質の良き方として聲に色も出し得艶もあり然かも熱演奮闘特質を一杯に演出し意氣も備はり抑揚もあり魅力もあり通れ前途を矚目せらるる粗笨にして餘韻足らざる様なれど性來器用らしければ骨子を把握して一工夫せば完成近きにあらんか。

近江源氏 岩本義雀、良造 東都義太夫の精々たるもの意氣に迫力に節に場合に詞に高低變化の利那の旨まさ満場の聴衆陶として酔はしめられたり多年の苦心努力とは云へ素義としての極致と觀るも蓋し過分の贅辭にあらざるべし強いて短所を需むれば全面的に硬ばりて優し味の缺如たる所あるは復習の足らざる爲めか今夕出演者の王座を占むるもの層一層の奮勵努力を切望して已ます。

今夕出演諸氏の中には斯界の新人もあり老巧者もある如うなれど筆者の拜聴する都度進境の著しきは師豊澤良造氏の懇切熱心なる薫陶指導の賜なるは勿論諸氏の努力の報ひられたるものと想はれ會心の微笑を洩すと同時に斯界發展の爲め加餐一番精進鍛練せば聽て錦上華を添ふるの期も近かるべし。

(橋、駒登) 阿波(遠波、絃平) 菅四(義昌、駒登) 草履打(喜風道之助) 長局(博子、駒登) 太十(掛合) 光秀(廣助) 重次郎(資子) さつき(幸子) みさを(清子) 初菊(薫) 久吉(いく子) 絃(雷糸) 小磯(二葉、猿清) 瀧(喜吉) 壽司屋(鶴、重子) 紙治(八千代、重之助) 御殿(其芳、重子) 陣屋(薫) 雷糸(野崎) 五口、道之助) 合邦(東光、重之助) 明烏(靜、道之助) 佐太村(うづほ、絃平) 菅四(掛合) 玄蕃(鳳) 松王(龜鶴) 源藏(五口) 戸浪(東光) 百姓(喜吉) 絃(紋左衛門) 二口目、赤垣(鳳、慶造) 鳴戸(五口、道之助) 志渡寺(東光、重之助) 油屋(一鶴、駒登) 新口村(月美、扇之助) 陣屋(福聲、駒登) 揚屋(登盛、条造) 御殿(富穂、駒登) 安達三(上誠、播磨) 壽司屋(喜世花、扇之助) 忠六(壽樂、朝見) 蝶八(里芳、勝助) 柳(素鳳、辰六) 油屋(葉扇之助) 太十(掛合) 光秀(旭重次郎) 正鳳) さつき(玉寶) みさを(操) 初菊(喜風) 久吉(五口) 絃(道之助) 河庄(義昇、素昇) 阿波(柳光、佳照) 本下(正鳳、道之助) 岸姫(美義、駒登) 堀川(山生、團吉) 紙治(光玉、佳照) 杏掛切(福笑、阿生駒) 陣屋(千晴、團市) 沼津(乃菊、佳照) 忠四(旭、道之助) 野崎(掛合) 久作(登盛) 久松(里芳) お染(博子) お光(叶) 母下女(花子) 絃(条造) ツレ(条一郎)

天網島遺跡見學會

近松研究會主催

近松研究會では天網島遺跡見學會を終了と見做して、その遺跡見學會を來る五月十九日午後一時三十分大阪橋橋島幸食堂前に晴雨に不拘集合の上、左の遺跡を巡歴する。

會根崎新地橋を東へ、格子の「河庄」からアノいたいけな「蜆橋」など(其他會根崎心中、心中又永朝日)の遺跡を巡つて南無網島の大長寺まで、大阪の文化を豊潤した大近松の筆のあとを偲ぶ半日の清遊行(其巡歴地圖は當日贈呈、先導は牧村源三氏幹事は木村豊三郎、伊藤湖花、白井達七の諸氏で巡歴終つて午後四時過ぎより大長寺に行き櫻宮橋東詰北「みよし」に於て「此あたりの芝居話」木谷蓬吟の講話(卅分)を聴き晚餐並に離談會を開くとのでである。

警視廳興行

保安部と 藝人連の 懇談會

豫て警視廳興行改正に就いて、藝界一般を通じて、技藝者許可證に關する件に警視廳興行保安部へ因會及び歌舞伎義太夫を代表して豊竹嚴太夫は十數回同應へ出頭懇談を重ね、義太夫兩派の申論も、三月末日迄に終了したるにより、更に同應興行保安部では、來る十七日午前十一時より丸之内工業俱樂部に各流代表を招待し、義太夫代表として豊澤良造(因會)、鶴澤觀西翁(因會)、竹本米翁(因會)、豊竹嚴太夫(因會)、歌舞伎義太夫聯盟) 竹本鏡太夫(歌舞伎義太夫聯盟)の諸氏を招き懇談會を開く事となつた。

東都杏義會發會

電氣俱樂部に開催

お醫者さんばかりが一丸となつて出來た會で日本醫師義太夫聯盟の發會式を兼ねて左の通り、七月七日午後七時より、日比谷電氣俱樂部新講堂に催し九時終演し、後座談會を開く由

妙心寺(岡田蝶花形) 新口(藤牧淡路) 沼津(橋本三司) 山名屋(箕浦其甫) 陣屋(緒方千晴)

五聲會大會

蠶糸會館に催す

同會春季大會を來る廿一日午後五時半より、丸の内蠶糸會館に開催するその番組は

菅四(庭山若實、宗之助) 山名屋(小原松榮、染登) 玉三(吉田三芳、猿藏) 忠六(松岡茂里雄、猿平) 日蓮三(井上聲風、吉兵衛)

更生初回の

東都義太夫大會

去る十日、十一日の兩日午前十一時より並木俱樂部に於て、春期東都義太夫大會を開催、當日の語物は左の通りであつた。

忠三(鳳、龜造) 忠四(叶、扇)

「尼ヶ崎」光秀(嚴太夫) 十次郎(寺岡三幸) 初菊(未定) 操(綾春) 皇月(吉作) 久吉(未定) 正清(細川清) 「鮎屋」權太(細川清) 維盛(吉作) 内侍、小せん(佳仙) (嚴太夫) 六代(道江) 彌

本社主催の餘技

太十と鮎屋 本極り

「尼ヶ崎」光秀(嚴太夫) 十次郎(寺岡三幸) 初菊(未定) 操(綾春) 皇月(吉作) 久吉(未定) 正清(細川清) 「鮎屋」權太(細川清) 維盛(吉作) 内侍、小せん(佳仙) (嚴太夫) 六代(道江) 彌

讀者クラブ

五十義會に多忙の爲め十數分間で、切の競演を二日間に乃菊氏と五口氏を聴きしのみ、兩者とも熱演を感謝す、乃菊氏は麻痺性痲勞の病狀をよく現はした笑ひは研究したるもの、但しこれは私の診斷のみ、五口氏、野崎にて、あたりまなこのところで「まな」で切り別々に「こ」といふは師匠の教へかどうかをききたい。

東太夫の長局猿之助の絃と共に因會の人氣を一人でさらつて、その後休養指示を出した爲か、嚴の白石には大水の引いた後のことくしんとして氣の毒であつたが無難の佳作であつた、東太夫のお初出色あり、だが待つ間、もどかしは斷然待つ間も、とけしの間違ひ廊下で絃義の元老にあつたら、もどけしでなくばいけぬといはれて茫然とした、この説明は淨曲研究一卷一號に又國語運動本年五月號に詳論してある (蝶花形)

<p>五月一日初日 毎日三時半開演</p> <p>眞山青果作 一、學者千石槍千石 三幕 甲賀三郎作 二、奧亞の先驅者 九場 三、五、條 橋 長連連中 川口松太郎作 四、續 蛇 姫 様 四幕</p> <p>觀劇料稅共 五、二〇〇 三、〇〇〇 一、八〇〇</p>	<p>五月一日初日 毎日四時開演</p> <p>泉 鏡花作 久保田万太郎演出 通し 婦 系 圖 上の巻 下の巻 六幕</p> <p>細田源吉作 村山知義演出 中 毒 團 藥 五場</p> <p>喜多村、木下、武田、英〇藤村 明石榮二、武村、河合、〇小堀、清水、山村、山口、〇梅島 多雅子、つや子、紅梅</p> <p>觀劇料稅共 四、九〇〇 三、〇〇〇 一、八〇〇</p>	<p>五月一日初日 午後三時開演</p> <p>一、義 經 千本 櫻 二幕 (鮎屋出演) 嚴太夫、吉作 二、保 名 清元連中 三、歌 舞 伎 十八番 連中 四、繪 本 太 功 記 一幕 (尼ヶ崎出演) 鏡太夫、市作 五、四千兩小判梅葉 四幕 羽左衛門、三津五郎、高麗藏 改左衛門、三津五郎、九藏 三升、宗十郎、第五郎、男女 藏、高助、第五郎、照藏、男女 朝、多賀之助、家藏、仁左衛門 吉之丞、七三郎、菊之助、友 右衛門、幸四郎</p> <p>觀劇料稅共 一、〇〇〇 七、〇〇〇 三、〇〇〇</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

豊澤芳太郎氏 深川區清澄町三ノ六